



311

県外避難者について考えよう

東日本大震災を経験した高校生・若者
アンケート調査結果報告書



調査概要

1 アンケート調査の目的

2011年に発生した東日本大震災による津波や原発事故により、東北3県や関東地域から愛知県・岐阜県・三重県に避難された方は、2012年3月のピーク時で約2,100人、2021年3月時点でも約1,300人に上っています。その中には、未就学児や児童・生徒もいますが、親の苦渋の決断によって避難を余儀なくされ、友人に別れの挨拶もできないままであったり、避難先が変わる度に学校も変わったりしたことは、大きな負担となりました。地震や津波の体験、原発事故からくる恐怖や不安で、身体や心の調子を崩すなど、PTSDの症状が現れる子どももあります。当事者として避難先の学校や友だちに震災の感覚を理解してもらえないことや、中にははじめを受けるなどの辛い経験をし、震災のことや避難について口を閉ざす子や不登校となる子もいます。しかし、こうした実態は、殆ど知られていません。

今回のアンケートは、東日本大震災を小学生から高校生の年代で経験し、現在、東海地域に暮らしている高校生や若者の皆さんから、当時の体験談や現在の心境を伺うことを目的に実施しました。そして、この結果は、支援関係者等とも共有し、今後の広域避難者支援や、今後起こりうる災害への備えにも活かしていきます。

2 主な質問項目

基礎情報（年齢、家族構成、避難元・避難先の県）、避難理由、困りごとや必要な支援、震災や原発事故への思いや考え、震災を経験していない子どもや同世代に向けてのメッセージ

3 調査の実施状況

対象

東日本大震災を経験し、東海3県に避難・移住した高校生から29才までの若者

方法

愛知県被災者支援センター、岐阜県、三重県に依頼し、アンケートを郵送で送付。郵送による返送またはWEBアンケートによる回答受付。

〈配布数〉愛知県：高校生から29才までの150人、三重県：約110世帯、岐阜県：約70世帯
・期間：2021年2月下旬～6月末まで ・有効回答数：52件

※愛知県では、年代別の被災者数が明らかになっていることから、愛知県被災者支援センターの協力により、調査対象の若者がいる世帯にのみアンケートを配布。岐阜県と三重県の場合は、世帯構成が不明であることから、避難者登録がされている世帯にアンケートを配布している。

4 調査の実施主体

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード

※「Yahoo! 基金 2020年度被災地復興調査助成プログラム」の助成を受けて実施しました。

避難先で! とした時の状況は



子どものしゃべり場





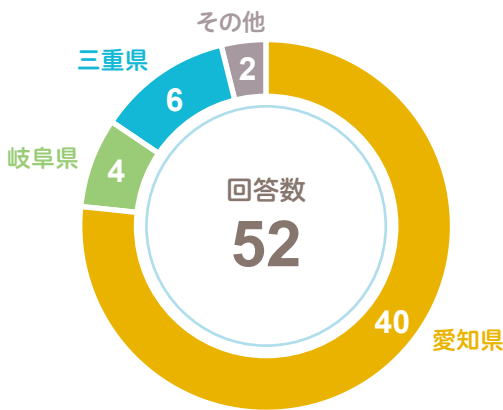
アンケートの 項目別の結果



QUESTION

1 現在、住んでいる県を教えてください。

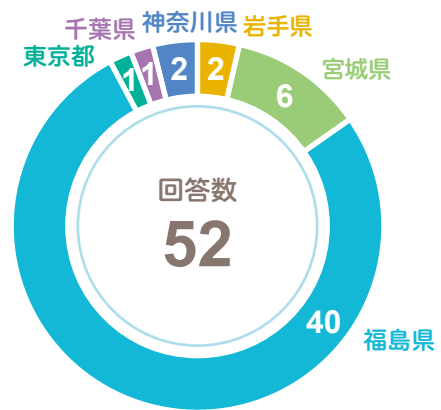
回答者の在住地は、「愛知県」40件（77%）、「岐阜県」4件（8%）、「三重県」6件（11%）でした。大学進学や就職等により、現在は東海3県外にいる方からの回答も2件ありました。



QUESTION

2 東日本大震災・原発事故のとき、住んでいた県を教えてください。

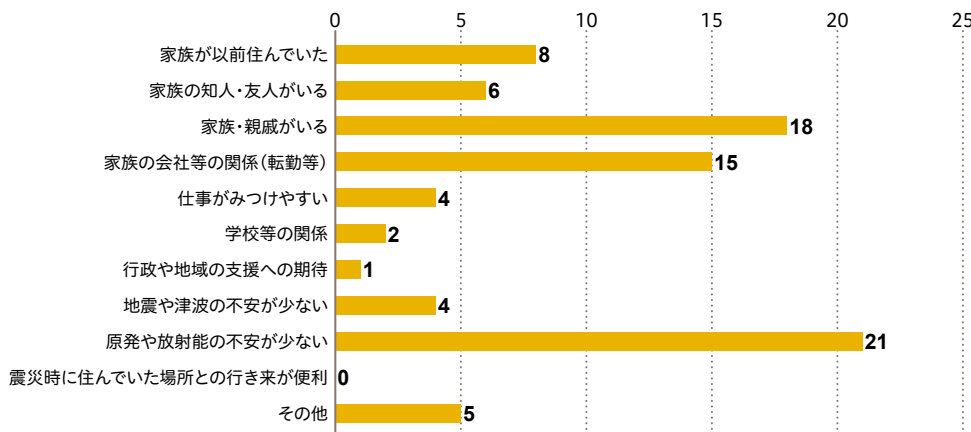
避難元として最も多かったのが、「福島県」で40件（77%）、次いで「宮城県」6件（11%）、「岩手県」2件、「神奈川県」2件、「東京都」1件、「千葉県」1件でした。



QUESTION

3 東海地域に避難・転居した理由を教えてください。

避難理由として最も多かったのが、「原発や放射能の不安が少ない」で21件（回答者の40%）、次いで「家族・親戚がいる」18件（回答者の35%）、「家族の会社等の関係（転勤等）」15件（回答者の29%）、「家族が以前住んでいた」8件（回答者の15%）でした。



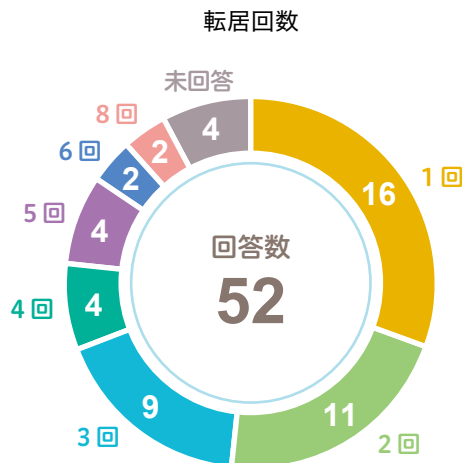
その他の回答（一部抜粋）

- 親が決めた。親の理由は仕事が見つけやすい
- 親の友人について来た
- 親の都合
- 母の知り合いの空き家があり、使わせてもらったから

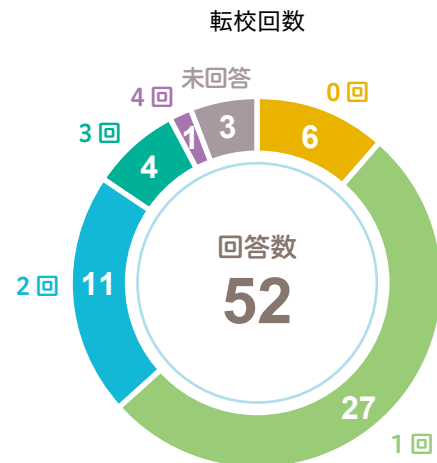
QUESTION

4 震災後、現在の場所に移るまで何回転居や転校をしましたか（避難所などを含む）。

転居回数は、「1回」が16件（31%）、「2回」が11件（21%）、「3回」が9件（17%）と、「1～3回」で全体の7割を占めています。また、全体の2割強の人が、住む場所を4回以上移っており、一番多い人で8回転居している人もいます。



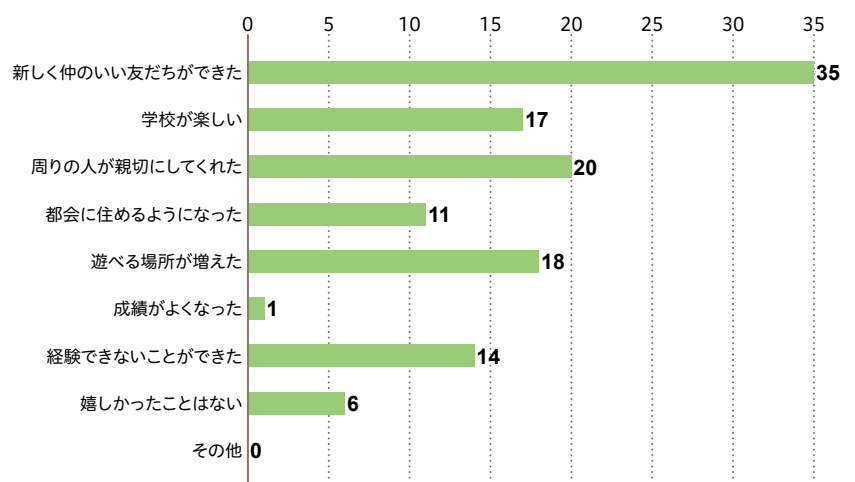
転校回数は、「1回」が27件（52%）、「2回」が11件（21%）と、「1～2回」で全体の4分の1を占めており、一番多い人で転校を4回しています。進学タイミングで転居をしている家族もあり、転居はしていても転校は「0回」という人もいます。



QUESTION

5 東海地域に転居してきたからの暮らしで嬉しかったことはありますか。

東海地域にきて嬉しかったこととして最も多かったのが、「新しく仲のいい友だちができた」で35件（回答者の67%）、次いで「周りの人が親切にしてくれた」20件（回答者の38%）、「遊べる場所が増えた」18件（回答者の35%）、「学校が楽しい」17件（回答者の33%）、「経験できないことができた」14件（回答者の27%）でした。一方で「嬉しかったことはない」という回答が6件（回答者の12%）あり、それぞれの状況に注意を払う必要があります。



「経験できないことができた」の回答（一部抜粋）

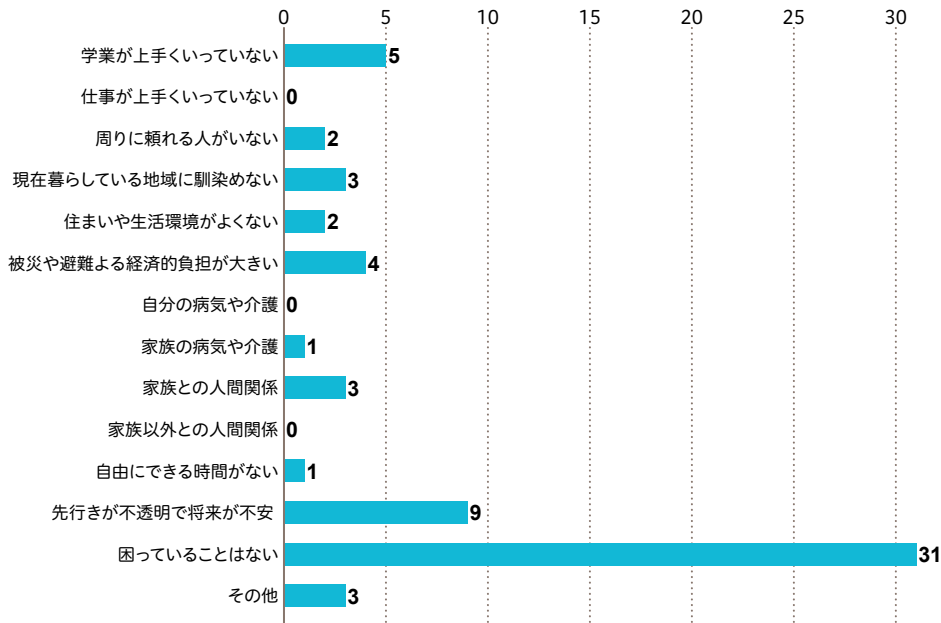
- 高校がたくさんあり、進みたい道、進路にあった高校選びができた。
- 避難先の市が主催している海外派遣研修に行くことができた。クラブワールドカップを見に行けたことが嬉しかった。
- アナウンスや朗読など声の仕事。
- 伊勢神宮に歩いて行けるようになった。

QUESTION

6 現在の暮らしで困っていることはありますか。

回答者の6割が「困っていることはない」という回答でした。

困っていることとして最も多かったのが、「先行きが不透明で将来が不安」で9件（回答者の17%）、次いで「学業が上手くいっていない」5件（回答者の10%）、「被災や避難による経済的負担が大きい」4件（回答者の8%）でした。中には、複数の項目にチェックをつけている回答者もあり、注意を払う必要があります。



家族関係に影響大!



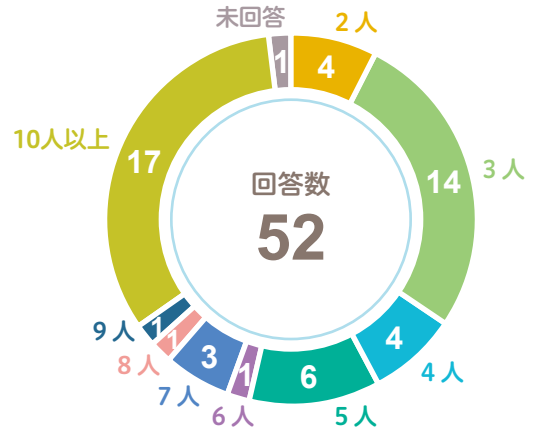
QUESTION

7 「現在の暮らしで困っていること」がある方は、もう少し詳しく具体的に教えてください。（一部抜粋）

- ・ お金が全然ないです。
- ・ 兄弟が多いので学費がきつい。
- ・ 親が離婚しており、経済的に不安。住まいは母親の実家の1棟を借りており（賃借）、4年以内に出る必要がある。
- ・ 震災以後、家族で離れて暮らしてますが、お金がかかることですし、家族との関係も離れていると難しいものがあります。私は独り立ちしてるから平気ですが名古屋にいる母が気がかりです。
- ・ 国や東電からの補償、賠償もなく、信頼していた支援センターから裏切られました。心の傷、経済的負担は大きくなる一方です。
- ・ 義理の両親との同居。
- ・ 引っ越す前の友達や親戚に簡単に会えない。
- ・ 大学が対面になるため、コロナなど気持ち的に不安。気分の浮き沈みがあり、心が落ち着かない。将来がなんとなく不安。
- ・ コロナウイルスによって学校生活が自由におくれないこと。
- ・ 大学での卒業論文のための研究が難航している。
- ・ 将来というものが考えられない。

QUESTION

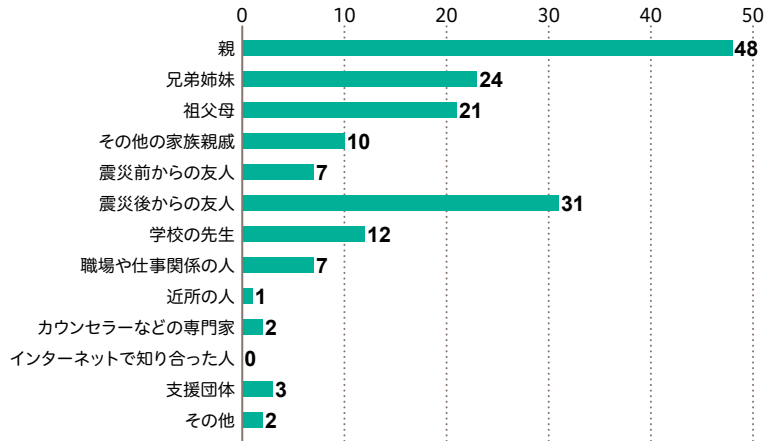
8 あなたの生活において、何かと助けに
なってくれる人は何人いますか（家族を含む）。



QUESTION

9 問8で挙げていただいた方とは、
どのような間柄にあたりますか。

助けになってくれる人として最も多かったのが、「親」で48件（回答者の92%）、次いで「震災後からの友人」31件（回答者の60%）、「兄弟姉妹」24件（回答者の46%）、「祖父母」21件（回答者の40%）、「学校の先生」12件（回答者の23%）、「震災前からの友人」7件（13%）、「職場や仕事関係の人」7件（13%）でした。



「支援団体」の回答

- 岐阜の支援団体
- 愛知県被災者支援センター
- レスキューストックヤード

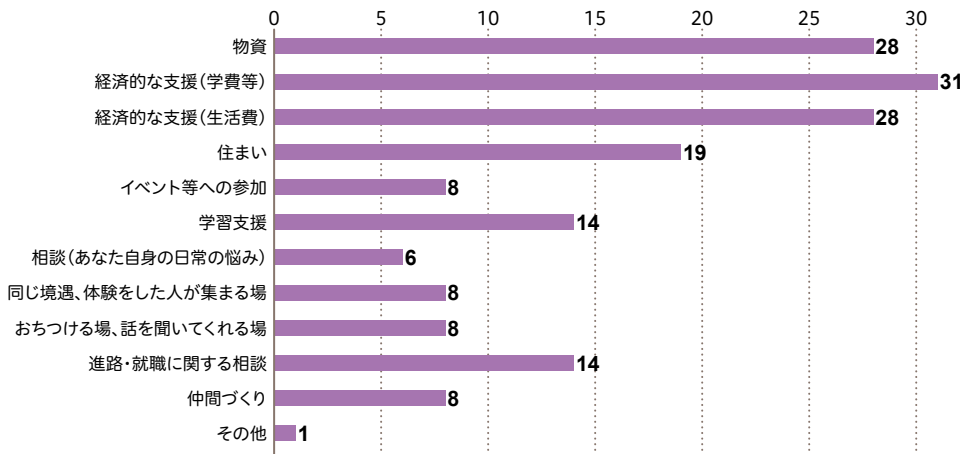
「その他」の回答

- 至学館大学
- ペット
- 韓流スター

QUESTION

10 被災や避難経験を踏まえて、
あるとよいと思う支援やサポートは何ですか。

あるとよい支援として、「経済的な支援（学費等）」31件（回答者の60%）、「経済的な支援（生活費）」28件（回答者の54%）、「物資」28件（回答者の54%）と、回答者の半数以上が経済面や物資支援が必要と回答しており、被災や避難による経済的負担を感じていることが伺えます。次いで「住まい」19件（回答者の37%）、「学習支援」14件（回答者の27%）、「進路・就職に関する相談」14件（回答者の27%）で、子ども・若者への支援として学習や進路相談等に関する支援希望が一定程度あります。



「その他」の回答

- 震災を忘れる、もしくは思い出さずにすむ環境の提供

学習支援の場

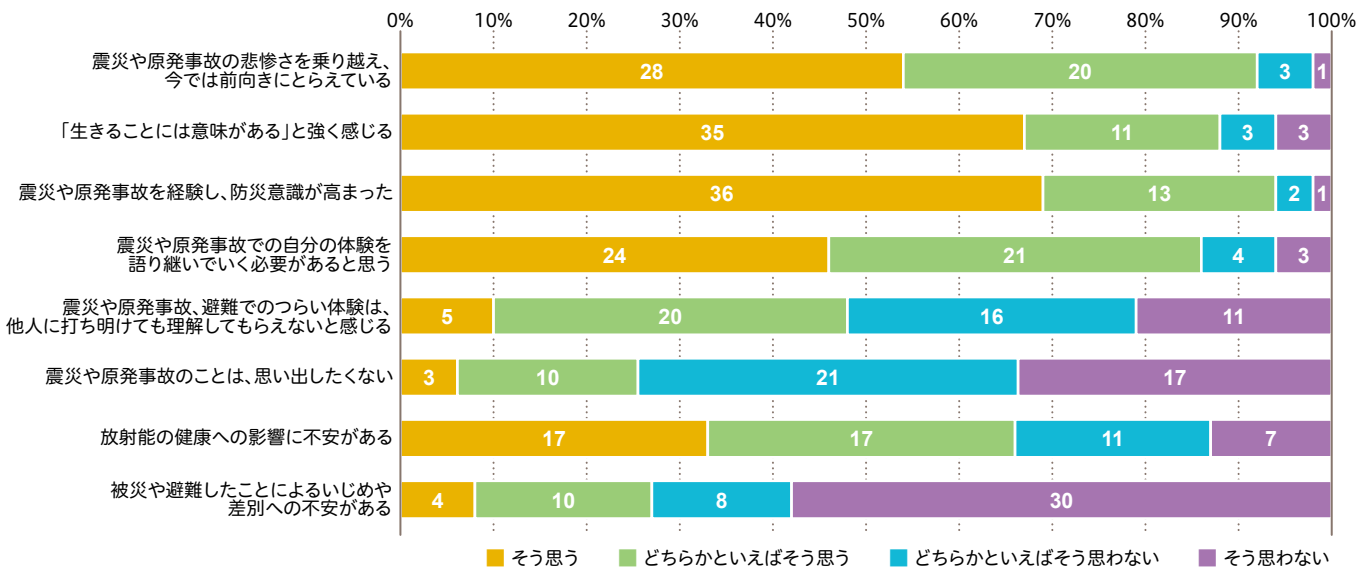


QUESTION

11 あなたの現在の心境について教えてください。

「震災や原発事故の悲惨さを乗り越え、今では前向きにとらえている」と「防災意識が高まった」は、9割以上の方が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答えています。また「自分の体験を語り継いでいく必要があると思う」という回答は8割を超えており、多くの若者当事者に、東日本大震災や原発事故について忘れて欲しくない、知って欲しいという気持ちや、将来起こりうる災害に経験を活かして欲しいという気持ちがあることが伺えます。その一方で、

「他人に打ち明けても理解してもらえないと感じる」という回答が5割弱あり、伝えることの難しさも感じられます。そして、2割を超えて回答のあった「震災や原発事故のことは、思い出したくない」という声や「いじめや差別への不安がある」という声も忘れてはいけません。「放射能の健康への影響に不安がある」という回答は6割を超えており、健康不安に寄り添う支援の継続が必要です。

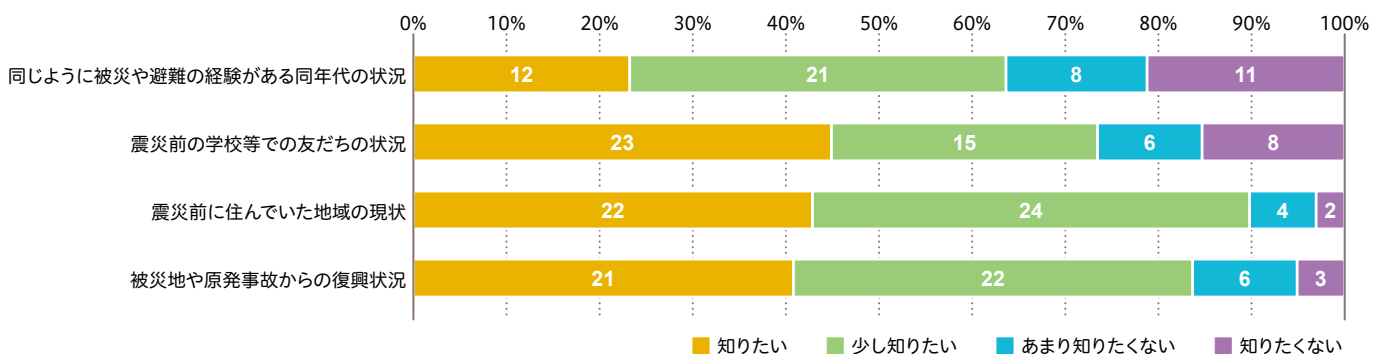


QUESTION

12 あなたは以下について知りたいと思いますか。

「同じように震災や避難の経験がある同世代の状況」は約6割の人が「知りたい・少し知りたい」と答えています。また、震災以降、当時の友だちと会えていないという人もあり、約7割の人が「震災前の学校等での友だちの状況」を「知りたい・少し知りたい」と答えています。「震災前に

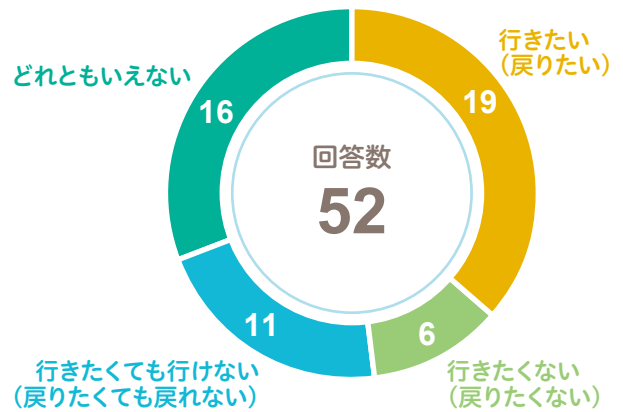
住んでいた地域の現状」は9割近く、「被災地や原発事故からの復興状況」は8割を超えて「知りたい・少し知りたい」と答えられており、多くの人が自身が暮らしていた町や復興への関心を持っています。



QUESTION

13 震災・原発事故当時に住んでいた場所に行きたい（戻りたい）と思いますか。

震災当時に住んでいた場所に「行きたい（戻りたい）」が19件（37%）で最も多く、「行きたくても行けない（戻りたくても戻れない）」11件（21%）、「行きたくない（戻りたくない）」6件（11%）でした。また、理由は様々であると考えられますが、「どれもいけない」が16件（31%）あり、複雑な状況が伺えます。

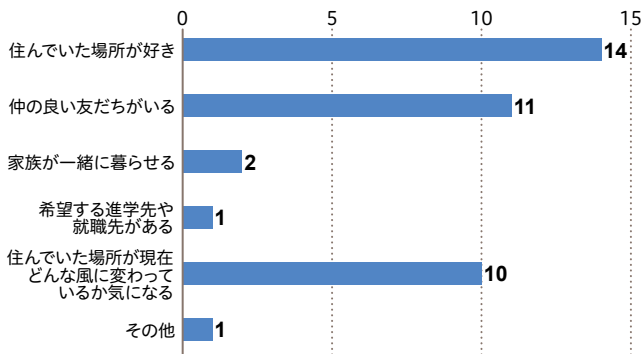


QUESTION

14 「行きたい」と答えた方は、その理由を教えてください。

※問13で「行きたい（戻りたい）」と回答した19人が回答

行きたい理由として最も多かったのが、「住んでいた場所が好き」で14件、次いで「仲の良い友だちがいる」11件、「住んでいた場所が現在どんな風になっているか気になる」10件でした。



「その他」の回答

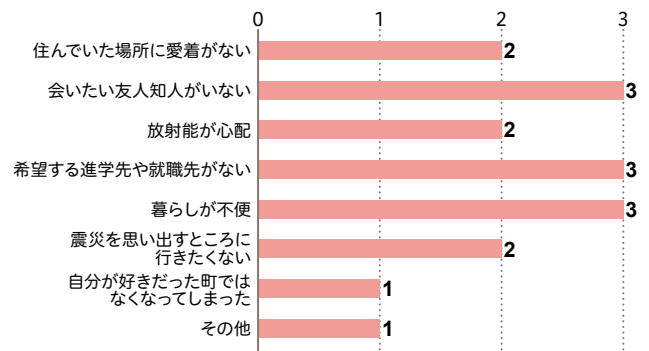
- 友だちがいた

QUESTION

15 「行きたくない」と答えた方は、その理由を教えてください。

※問13で「行きたくない（戻りたくない）」と回答した6人が回答

行きたくない理由としては様々で、「会いたい友人知人がいない」「希望する進学先や就職先がない」「暮らしが不便」がそれぞれ3件、「住んでいた場所に愛着がない」「放射能が心配」「震災を思い出すところに行きたくない」がそれぞれ2件ずつとなっています。



「その他」の回答

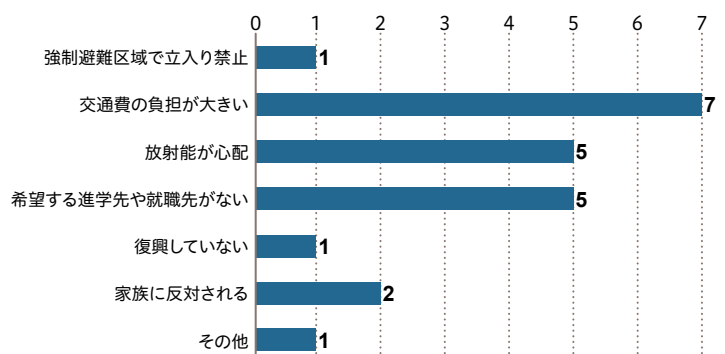
- 田舎の人は一度出ていった人を受け入れる民族ではないです。

QUESTION

16 「行きたくても行けない」と答えた方は、その理由を教えてください。

※問13で「行きたくても行けない（戻りたくても戻れない）」と回答した11人が回答

行きたくてもいけない理由として最も多かったのが、「交通費の負担が大きい」で7件、次いで「放射能が心配」と「希望する進学先や就職先がない」が5件でした。「家族に反対される」という回答も2件あります。



「その他」の回答

- 放射能で家庭も変わってしまったし、狭い街なので家庭環境の変化が周りに筒抜けである。また、避難した人間への批判も当時かなりあった。住んでいた時の街は確かに好きだったけど、放射能もそうだし人も全て変わってしまった。自分の帰る場所でも帰りたい場所でもなくなった。強いて言うなら、過去（原発事故前）に戻りたい。

QUESTION

17 性別と年齢を教えてください。

回答者の性別は、男性22 (42%)、女性28 (54%) でした。年齢は、高校生から20代前半の年代が多くを占めています。

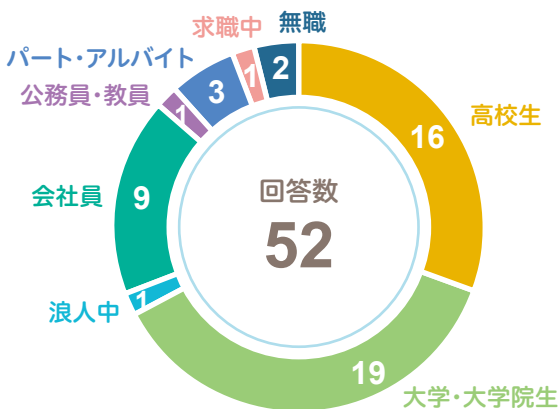
男性	22
女性	28
回答しない	2

15才	5	20才	8	25才	1	
16才	3	21才	6	26才	1	
17才	6	22才	5	27才	0	
18才	6	23才	1	28才	4	
19才	4	24才	0	29才	0	
					未記入	2

QUESTION

18 現在の就業・就学状況について教えてください。

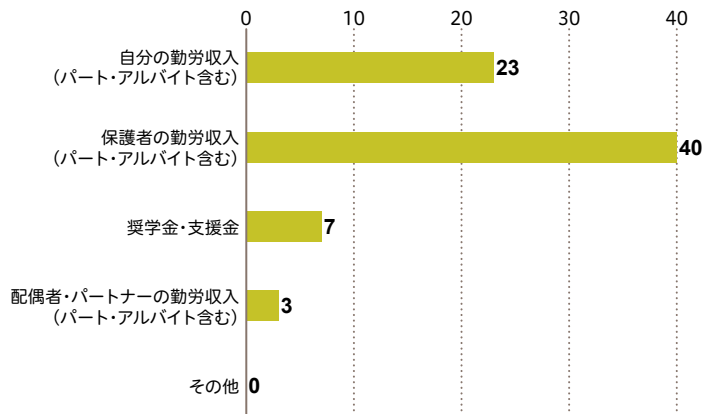
最も多かったのが「大学生・大学院生」19件 (36%)、次いで「高校生」16件 (31%)、「会社員」9件 (17%)、「パート・アルバイト」3件、「無職」2件、「浪人中」「公務員・教員」「求職中」1件でした。



QUESTION

19 現在の生計（生活のための方法）は、どれですか。

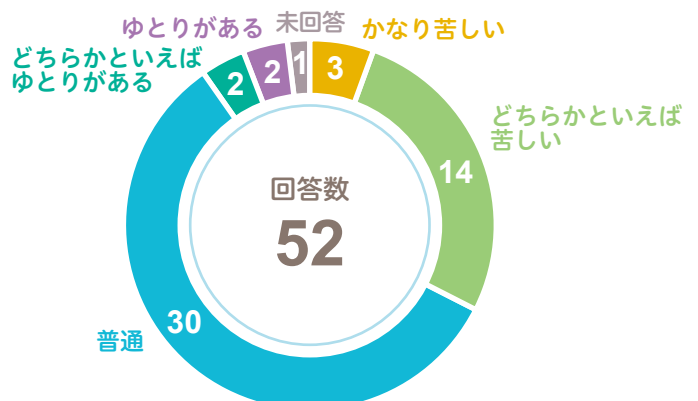
多い回答順に、「保護者の勤労収入」が40件 (回答者の78%)、「自分の勤労収入」23件 (回答者の44%)、「奨学金・支援金」7件 (回答者の13%)、「配偶者・パートナーの勤労収入」3件 (回答者の6%) でした。



QUESTION

20 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。

暮らしの状況として最も多かったのが、「普通」30件 (59%) でした。「(どちらかといえば) ゆとりがある」と回答した人はあまり多くなく、「かなり苦しい」3件 (6%)、「どちらかといえば苦しい」14件 (27%) と、「苦しい」という回答が3割を超えており注意を払う必要があります。



QUESTION

21 震災や避難を経験したことのない同世代や子どもたちへのメッセージ

- 自分で未来は切り拓け!!!
- 今を大切に。過去よりもこれからです。自分の命は自分で守りましょう。
- 自分の命は自分で守る!
- 冷静な判断を!!
- 環境の変化は自分が思っているより体に負担がかかります。自分の健康第一に、心を病まないよう、辛くなったら他の人を頼ってください。人はそんなに強い生き物ではないです。
- 私は震災後、当時のクラスメートや友だちと1人も会えておらず、今彼らがどうなっているかも全く分かりません。災害というのは今まで当たり前だと思っていた生活を一瞬にして奪い去る恐ろしいものです。そのため、もし災害が起こった時には大人の指示に従って、自分の身の安全を第一に守ってください。また、今過ごしている何気ない日常は当たり前ではありません。1日1日を大切に過ごしてください。
- いつ・どのように起こるのか分からない地震は不安ですが、周りにも同じように不安を感じている人はたくさんいると思います。悩みや不安は誰かに話してみるだけでも少しは解消されます。「自分だけ」と抱え込まないでください。
- 震災や原発事故など、非日常なことが起こるとパニックになったり、どうしたらいいか分からなくなると思います。ですが、いざというとき助けになってくれたり、支えてくれる人は必ず周りにいます。私自身、数えきれないほどの方々に助けられました。避難先で大切な人たちもできました。辛いこと、悲しいこともあるかもしれませんが、周りの人と支え合って、新しい人と出会えば、震災が悪いことしかなかったという考えも少しはなくなると思います。知識や対策の備えだったら今からでもできるので、日頃から気にかけてみてください。
- 例え信用できる肩書きや職業の人であっても、簡単に信用してはいけません。被災者や学生等、社会的に弱い立場にある人は、食べ物にされる危険が一般の人よりも多いということを肝に命じて生活しなくてはなりません。震災直後は辛いのは当たり前ですが、10年経ってもマスコミや支援団体等、「忘れてはならない」「語り継がなくてはならない」と騒ぎますが、私は思い出したくない人は思い出さなくていいと思います。周りの大人に何を言われても、自分が正しいと思う選択をして、自分自身を守ってください。
- 都会から田舎に引っ越すと、人々が暖かく感じるかもしれません。自分はそうでした。辛いことがあったら人に話すことは大事だと思います。一人で抱え込まないでね。
- 震災だけでなく原発事故の被害も大きかった。原発事故について、政府はほとんど情報を開示していなかったので、母が必死に情報収集していました。備えとしては、物的な備えも大切ですが、震災が起きたときに住む場所が変わるかもしれないという可能性も考えておくとよい。



- 災害が来てから大きな後悔をしないよう、思ったらすぐ防災対策をしたほうがよい。
- 命を大事にしてください。生きていればなんとかなるから。
- 東日本大震災において、被災していない人でも、どのようなことが起きていたのか、今どのようになっているのか知って欲しい。



- 実際に経験したことがない人の中には、震災を楽観的に見ている方もいると思います。大切な命を守るためにも、震災について1度しっかり考えてみて欲しいです。南海トラフ地震もいつ起こるか分かりません。明日起こるかもしれないし、何年後かに起こるかもしれません。いつ起こるか分からないからこそ、しっかり準備をして欲しいです。



- 日本には、みんながいるから怖くない。
- いつ起こるか分からない災害に備えて、日頃から準備しておこう。

東日本大震災の直後、私は海から数メートルの場所におり、津波が生まれ育った街を飲み込んでいく一部始終を高台から見っていました。津波が迫るまでの時間は、地震から15~20分程度あり、その間の海の様子は、今まで見たこともない波の動きをしていました。この後とんでもないことが起こる前触れであることは、津波を経験したことがない私でも十分に理解できました。その際、私は「高台から目の前に見えている友人宅の友人は、異変に気付いて逃げているだろうか?」「声を掛けに行っただ方が良いのではないだろうか?」等、様々な不安が襲ってきました。結果、友人は避難しており無事で良かったのですが、あの時私が誤った判断をし、高台から降りて行っていたら、私も命の保証はありませんでした。震災では、家族を助けに自宅に戻り被災した方も多数いると聞いています。私の育った岩手県釜石市では『津波てんでんこ』という教を小中学校の頃から教わってきました。「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自てんでんばらばらに一人が高台へと逃げろ」「自分の命は自分で守れ」という意味です。いざ自分が震災に直面した際は、ぜひこの言葉を思い出して欲しいです。また、日頃から家族間で『津波てんでんこ』の共通意識を持っておくことが大事だと思います。最後になりますが、海の近くで被災し、津波の恐れがある際は『遠方ではなく、高く強固な建造物に逃げる』という意識を持って欲しいです。

災害は、経験しなければ他人事のように捉えがちだと思います。実際に経験すると、何をして良いか分からず、大変困りました。普段から防災意識を持っておくことが大事だと考えますが、なかなか難しいかと思います。ですから、1度でも良いので、災害に対する基本的な知識を身に付けて、その時に備えて臨機応変に対応できるようにしておくことが必要だと思います。

地震を機にこれまでの生活が180°変わることはありますが、全てが悪いことではありません。自分の命を守るためにまずできることは、災害の知識を得ることだと思います。怖いという気持ちをなくすためには、備えることが最大の防御です。一緒に頑張りましょう。

家族や大切な人とは、電話番号・メールアドレス等を交換しておくといいかも。

• 全ての変化は意味がある。

• 住めば都。

• 荷物は少なめに。地元で固執しすぎない。



いざ逃げようと思っても、逃げられない人たちがいて、津波や地震で多くの方が亡くなってしまいます。ですから、大きい地震があった瞬間、できるだけ早く遠くに逃げてください。大きめのバッグに家族分の水や食料、ライト、電池、衣類など入れておくと、地震があった時に慌てずに持っていけるため、準備しておいた方が身のためです。

一度だけでも、家族と時間をかけて避難先について話し合ってください。常に災害を想定することは無理だし、避難訓練にも身が入らないのは私も良くわかります。だから、何かあった時のための話し合いを、一度だけして欲しいです。話し合う内容としては、どこに逃げるのか、誰が迎えに来るのかなどです。近年は、地震などの身近には感じにくい災害以外にも、大雨や川の氾濫など、身近に感じやすい災害も増えています。10分だけでも、真剣に考えてくれると、身を助けてくれるかもしれません。

• 日常は、ある日突然崩れます。一度崩れたものは、時間をかけて元に戻るものがありますが、戻らないものもあります。「自分は大丈夫」「そんなこと起こらない」と、心のどこかで思っていないですか。私も震災当時、そう思っていました。でもそれは、ある日突然やってきます。ですから、当たり前だと思っている今と家族を大切にすることが、後悔なく生きることにつながります。今あるかけがえのないものを大切に。そして「想定外だった」を一つでも減らし、できることから備えることが、自分と自分の大切なものを守るためにできることです。

調査結果を受けて ～震災・原発事故の経験の共有と継承

東日本大震災・福島原発事故当時、子どもだった避難当事者の声がまとまった形で初めて可視化されたことの意義はさきわめて大きい。震災・原発事故後、大人の判断で、避難を余儀なくされた子どもたちは、将来に対する不安や経済的な負担に加えて、幼馴染の友だちとも会えなくなったという話に胸を締め付けられる思いがした。同時に、この調査に答えているのは、震災・原発事故の困難を乗り越え、生きることに対して前向きな人々である。震災や避難を経験していない同世代や子どもたちに対して、災害は我々が当たり前と思っている日常を一瞬にして奪い去るものである、自分だけで抱え込まず対処するよう、また日頃から災害に備えるようと、力強いメッセージを送っている。こうした内容は掛けがえのない体験であり、より多くの学校、行政、市民社会の関係者に共有されるべき内容だ。

なお、この調査には回答せず、今なお震災・原発事故を語るができない沈黙する避難者がたくさんい

る。当時の子どもや若者に限らず、避難者の経験を社会で共有し、これからの災害に備える機会につなぐべきである。同時に、定期的に避難当事者が言葉を取り戻す「語り合いの場」の必要性も痛感させられた。当時子どもだった人だけでなく、大人も語ることによって、大震災・原発事故の経験が共有され継承される。そのための始まりである。誰がどう取り組み続けるかわからないが、定期的な調査とその場の設定が必要である。



中京大学現代社会学部教授/
福島子ども健康プロジェクト代表
成元哲

調査結果を受けて ～今後の支援に向けて

今年3月、「あれから10年」と連日マスコミが特集を組んだ。社会全体が東日本大震災と改めて向き合ったことに意義はあった。しかし、以降ピタッと止まってしまっていることが悔しい。避難当事者は、「健康・住まい・就業・就学・家族・地域・暮らし」という私たちが生きていく上で直面する課題に、濃淡の差こそあれ、この10年、何一つクリアに解決したとは言い難い理不尽さを抱きながら、あの日から毎日、向き合い続けて



いるからである。この現実をどれだけ社会が理解しているか。過去のことだと勘違いしてはいないか。

ましてや今回の対象は、当時の子どもたち、現在の若者である。ようやく声に出し、当時のこと、この間の歩み、そして将来について語ってくれた貴重なアンケートである。突然襲いかかった境遇に、それぞれの小さな胸で何とか現実を受け止めつつも、日に日に増す社会の無関心がさらなる苦悩に追い打ちをかけたこと、それでも家族やよき友らの存在によって、今、生き生きと生きている若者の生の声が詰められている。まずはこの声を社会全体が聴くことを願う。そして私は、声を出せない、出したいくない人の存在も認識しつつ、「聴き続ける」「生かす」次の展開を考える役割を噛み締めている。

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード
代表理事 栗田 暢之

高校生・若者の声や感じていることを聞かせてください
～ 東日本大震災を経験した高校生・若者アンケート ～

東日本大震災を経験し、東海地域にいる若者の皆さま



こんにちは。レスキューストックヤード（RSY）です。
新型コロナウイルスの影響が続く中、お元氣にお過ごしでしょうか。
さて、東日本大震災および原発事故から10年が経ちます。RSYは、東海地域に避難された方々への支援を継続していますが、これまで皆さんのような年代の方々から震災への思いや考えを伺うことはあまり多くはありませんでした。しかし、10年経過した今だからこそ言えることや、伝えたいこともあるのではないのでしょうか。

このアンケートでは、東日本大震災を小学生から高校生の年代で経験し、現在、東海地域に暮らしている皆さんが、どんな日々を過ごしているか、震災や原発事故について、どんなことを思っているかを聞かせていただきます。そして、支援関係者等とも共有し、これからの支援や、今後起こりうる災害への備えにも活かしていきたいと思っています。書いていただいた内容は、どなたが書いたかわからないようにして、社会にも届ける予定です。

ぜひ皆さんお一人おひとりの声や感じていることを聞かせてください。ご協力よろしくお願いたします。

◆対象：東日本大震災を経験し、東海地域にいる高校生～29歳までの若者の方
◆回答方法：①郵送または②インターネットのどちらかでご回答ください。

①郵送による回答

同封のアンケート用紙に記入し、同封の返信用封筒にてご返送ください。

②インターネットによる回答

右のQRコードをスマホで読み込み、表示されたアンケート画面にてご回答ください。



アンケートQRコード

◆アンケートに関するお問い合わせ

認定NPO法人レスキューストックヤード（担当：森本）
〒461-0001 名古屋市中区泉1-13-34 名建協2階

◆TEL：052-253-7550

◆FAX：052-253-7552

◆E-mail：info@rsy-nagoya.com

【協力】中京大学現代社会学部 成 元哲 教授

本事業は、Yahoo!基金 被災地復興支援助成プログラム2020の助成を受けて実施しています

アンケートにお答え
いただいた方全員に
QUOカード
1,000円分
プレゼントします

※レスキューストックヤード（RSY）は、過去の災害から学んだ教訓を活かし、災害に強いまちづくりのお手伝いをして
いるNPOです。東日本大震災の広域避難者支援では、官設民営の「愛知県被災者支援センター」の運営や、福島県が全
国に設置している相談拠点の岐阜・三重を担当しています。東海地域に避難したお子さんの夢を応援する「FOR子ども
支援基金」なども行ってきました。

東日本大震災を経験した高校生・若者アンケート



- 問1-1. あなたが現在、住んでいる県を教えてください。（あてはまるもの一つに○）
ア. 愛知県 イ. 岐阜県 ウ. 三重県
エ. その他（具体的に： _____）
- 問1-2. 東日本大震災・原発事故のとき、あなたが住んでいた県を教えてください。（あてはまるもの一つに○）
ア. 岩手県 イ. 宮城県 ウ. 福島県 エ. 茨城県 オ. 栃木県
カ. 群馬県 キ. 埼玉県 ク. 東京都 ケ. 千葉県 コ. 神奈川県
サ. その他（具体的に： _____）
- 問1-3. あなたが東海地域に避難・転居した理由を教えてください。（あてはまるもの全てに○）
ア. 家族が以前住んでいた イ. 家族の知人・友人がいる ウ. 家族・親戚がいる
エ. 家族の会社等の関係（転勤等） オ. 仕事がつまみやすい カ. 学校等の関係
キ. 行政や地域の支援への期待 ク. 地震や津波の不安が少ない
ケ. 原発や放射能の不安が少ない コ. 震災時に住んでいた場所との行き来が便利
サ. その他（具体的に： _____）
- 問1-4. あなたは震災後、現在の場所に移るまで何回転居や転校をしましたか（避難所などを含む）。
転居：（ _____ ）回
転校：（ _____ ）回
- 問2-1. 東海地域に転居してきてからの暮らしで嬉しかったことはありますか。（あてはまるもの全てに○）
ア. 新しく仲のいい友だちができた イ. 学校が楽しい ウ. 周りの人が親切にしてくれた
エ. 都会に住めるようになった オ. 遊べる場所が増えた カ. 成績がよくなった
キ. 経験できないことができた
（具体的に： _____）
ク. 嬉しかったことはない
ケ. その他（具体的に： _____）

あなたの生活での困りごとや、必要な支援について教えてください。

- 問3-1. 現在の暮らしで困っていることはありますか。（あてはまるもの全てに○）
ア. 学業が上手くいっていない イ. 仕事が上手くいっていない
ウ. 周りに頼れる人がいない エ. 現在暮らしている地域に馴染めない
オ. 住まいや生活環境がよくない カ. 被災や避難による経済的負担が大きい
キ. 自分の病気や介護 ク. 家族の病気や介護
ケ. 家族との人間関係 コ. 家族以外との人間関係
サ. 自由にできる時間がない シ. 先行きが不透明で将来が不安
ス. 困っていることはない セ. その他
- 問3-2. 「現在の暮らしで困っていること」がある方は、もう少し詳しく具体的に教えてください。
(_____)
- 問3-3. あなたの生活において、何かと助けになってくれる人は何人いますか（家族を含む）。
(_____)人
- 問3-4. 問3-3で挙げていただいた方とは、どのような関係にあたりますか。（あてはまるもの全てに○）
ア. 親 イ. 兄弟姉妹 ウ. 祖父母 エ. その他の家族親戚 オ. 震災前からの友人
カ. 震災後の友人 キ. 学校の先生 ク. 職場や仕事関係の人 ケ. 近所の人
コ. カウンセラーなどの専門家 サ. インターネットで知り合った人
シ. 支援団体（団体名： _____）
ス. その他（具体的に： _____）
- 問3-5. 被災や避難経験を踏まえて、あるとよいと思う支援やサポートは何ですか。（あてはまるもの全てに○）
ア. 物資 イ. 経済的な支援（学費等） ウ. 経済的な支援（生活費）
エ. 住まい オ. イベント等への参加 カ. 学習支援
キ. 相談（あなた自身の日常の悩み） ク. 同じ境遇、体験をした人が集まる場
ケ. おちつける場、話を聞いてくれる場 コ. 進路・就職に関する相談
サ. 仲間づくり
シ. その他（具体的に： _____）

震災や原発事故への思いや考えなどについて教えてください。

- 問4-1. あなたの現在の心境について教えてください。最も近いもの一つに○をつけてください。
- | | そう思う | どちらかといえば
そう思う | どちらかといえば
そう思わない | そう
思わない |
|---|------|------------------|--------------------|------------|
| 震災や原発事故の悲惨さを乗り越え、今では前向きにとらえている | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 「生きることには意味がある」と強く感じる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 震災や原発事故を経験し、防災意識が高まった | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 震災や原発事故での自分の体験を語り継いでいく必要があると思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 震災や原発事故、避難でのつらい体験は、他人に打ち明けても理解してもらえないと感じる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 震災や原発事故のことは、思い出したくない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 放射能の健康への影響に不安がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 被災や避難したことによるいじめや差別への不安がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
- 問4-2. あなたは以下について知りたいと思いますか。最も近いもの一つに○をつけてください。
- | | 知りたい | 少し
知りたい | あまり
知りたい
くない | 知りたい
くない |
|------------------------|------|------------|--------------------|-------------|
| 同じように被災や避難の経験がある同年代の状況 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 震災前の学校等での友だちの状況 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 震災前に住んでいた地域の現状 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 被災地や原発事故からの復興状況 | 1 | 2 | 3 | 4 |
- 問5-1. 震災・原発事故当時に住んでいた場所に行きたい（戻りたい）と思いますか。（あてはまるもの一つに○）
ア. 行きたい（戻りたい） イ. 行きたくない（戻りたくない）
ウ. 行きたくても行けない（戻りたくても戻れない） エ. どれともいえない
- 問5-2. 問5-1で「行きたい」と答えた方は、その理由を教えてください。（あてはまるもの全てに○）
ア. 住んでいた場所が好き イ. 仲のいい友だちがいる ウ. 家族と一緒に暮らせる
エ. 希望する進学先や就職先がある オ. 住んでいた場所が現在どんな風になっているか気になる
カ. その他（具体的に： _____）

問 5-3. 問 5-1 で「行きたくない」と答えた方は、その理由を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- ア. 住んでいた場所に愛着がない イ. 会いたい友人知人がいない
ウ. 放射能が心配 エ. 希望する進学先や就職先がない オ. 暮らしが不便
カ. 震災を思い出すと行きたくない キ. 自分が好きだった町ではなくなってしまった
ク. その他(具体的に: _____)

問 5-4. 問 5-1 で「行きたくても行けない」と答えた方は、その理由を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- ア. 強制避難区域で立入り禁止 イ. 交通費の負担が大きい ウ. 放射能が心配
エ. 希望する進学先や就職先がない オ. 復興していない
カ. 家族に反対される
キ. その他(具体的に: _____)

あなたご自身について教えてください。

問 6-1. 性別と年齢を教えてください。(あてはまるもの一つに○)

性別: ア. 男性 イ. 女性 ウ. 教えたくない

年齢: () 才

問 6-2. 現在の就業・就学状況について教えてください。(あてはまるもの一つに○)

- ア. 高校生 イ. 大学・大学院生 ウ. 休学中 エ. 浪人中
オ. 自営業 カ. 会社員 キ. 公務員・教員 ク. パート・アルバイト
ケ. 家事専業 コ. 求職中 サ. 無職
シ. その他(具体的に: _____)

問 6-3. あなたと一緒に住んでいる家族を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- ア. 父 イ. 母 ウ. 兄弟姉妹 エ. 祖父 オ. 祖母
カ. 配偶者・パートナー キ. 子ども ク. 一人暮らし
ケ. その他(具体的に: _____)

4

問 6-4. 現在の生計(生活のための方法)は、次のどれですか。(あてはまるもの全てに○)

- ア. 自分の勤労収入(パート・アルバイト含む) イ. 保護者の勤労収入(パート・アルバイト含む)
ウ. 奨学金・支援金 エ. 配偶者・パートナーの勤労収入(パート・アルバイト含む)
オ. その他(具体的に: _____)

問 6-5. 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(あてはまるもの一つに○)

- ア. かなり苦しい イ. どちらかといえば苦しい ウ. 普通
エ. どちらかといえばゆとりがある オ. ゆとりがある

あなたの連絡先について教えてください。

問 7-1. みなさんの経験を今後に活かしていけるよう、みなさんの声を集めた冊子を作成したいと考えています。そのためのヒアリング(2021年3月~6月頃を予定)にご協力いただけますか。(あてはまるもの一つに○)

- ア. 協力できる イ. 協力できない
ウ. もう少し詳しく知ってから考えたい エ. わからない
オ. その他(具体的に: _____)

問 7-2. 問 7-1 で「協力できる」「もう少し詳しく知ってから考えたい」と答えた方は、お名前と住所、電話番号、メールアドレスを教えてください。

※電話番号とメールアドレスは、ご自宅や親御さんのものでも大丈夫です。

名前:(_____)

住所:(_____)

電話番号:(_____)

メールアドレス:(_____) ※任意

問 8-1. 今回のアンケートにお答えいただいた方には、もれなく QUO カードをプレゼントします。ご希望される方は、お名前と送り先住所を教えてください。

※問 7-2 で答えた住所と同じ場合は、記入いただく必要はありません。

名前:(_____)

住所:(_____)

5

問 9-1. 全国で毎年災害が頻発しています。この地域は南海トラフ巨大地震の発生も予想されています。震災や原発事故、避難の経験をしたことがない同級生や同世代、同じような経験をす

る可能性のある子どもたちへ向けたメッセージを自由にお書きください。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。



6

参考資料





調査に関する問合せ／発行

認定特定非営利活動法人

レスキューストックヤード

住 所

〒461-0001名古屋市東区泉1-13-34 名建協2階
TEL : 052-253-7550
FAX : 052-253-7552
E-mail : info@rsy-nagoya.com

発行年

2021年9月